

審査項目及び評価の視点		評価のポイント
I 基本的事項	(1) 応募者(法人)の経営状況	・確実な事業継続の実施が可能か。
	(2) 応募者(法人)スタッフへの教育体制	・法人内のスタッフに対する研修体制を整備しているか。(介護予防、認知症に対する理解等を含む) ・人材育成マニュアルを整備しているか。 ・必要な情報が職員に周知される体制が整っているか。
	(3) 介護予防に対する理解	・介護予防対策を正しく理解できているか。 ・その重要性を認識できているか。
	(4) 類似事業に係る実績	・他都市で、通所型もしくはそれに準じるサービス提供の実績があるか。
	(5) 本市介護予防事業への参画に対する意欲	・本事業の目的を理解したうえで、積極的な参画意欲がみられるか。 ・本事業に取り組む意欲とともに、他市や他団体での実績調査を含め、事業改善等に向けた積極的な本市への提案等が期待できるか。
	(6) 本事業に係る人員体制	・事業運営に当たり、十分な人員配置がなされるか。
	(7) 市との柔軟な連携姿勢	・本事業は、モデル的に実施する事業であるため、適宜、運営手法の検証や見直し等を行うほか、それに対する柔軟な対応が期待できるか。
	(8) 個人情報保護及び管理の方法	・本市の個人情報規程に沿った管理ができるか。
	(9) 提案額(見積額)	・提案額(見積額)による判定
II フレイル改善通所プログラム【事業1】	(1) 参加者選定	
	① 視点	・本事業に適した参加者の選定について、適切な考え方を持っているか。
	② 候補者へのアプローチ	・候補者へのアプローチの考え方が明確で、効果的に事業参加を促す工夫が見られるか。
	(2) 地域包括支援センターとの連携(連携のタイミング、連携手法等)	・参加者選定及び事業運営中の連携など、主体的に地域包括支援センターへの働きかけを行うなど、有効な関わり方が期待できるか。
	(3) 事業参加者へのプログラム内容の説明(チラシ作成、説明方法等)	・事業参加者に事業趣旨を正しく伝え、事業効果を上げる取組が期待できるか。
	(4) 初回問診票(ポイントとなる項目、書きやすさ等)	・効果的な目標設定に繋がる項目となっているか。 書き手に配慮した視点があるか。
	(5) 送迎の手法(参加者との調整方法、自力での移動を促す対策等)	・安全かつ効率的な送迎が行われるか。
	(6) 目標設定(参加者へのアプローチの仕方、具体的な目標例等)	・各参加者の心身状態や、主観的健康感及び運動習慣等を反映した個人別の目標設定が適切に行われるか。
	(7) 個人用カルテの内容(ポイントとなる項目、参加者個別対応に係る工夫等)	・各参加者の目標達成へ向けたプロセスが行えるような項目が設定されているか。
	(8) 行動変容等の視点・確認方法(待ち時間の使い方を含む)	・行動変容等の確認に係る視点が明確で効果的となっているか。 ・各プログラム中の確認方法は効率的に行われるか。
	(9) 3ヶ月のプログラムの概要(全体コンセプト、各回の目標目安等)	・心身機能・生活機能の改善を意識した、プログラム構成となっているか。 ・参加者個々の状態に合わせた配慮がなされているか。
	(10) 体力測定(項目の視点・実施の流れ等)	・各参加者の目標達成状況を確認できる有効な視点となっているか。
	(11) アンケート調査票(ポイントとなる項目、書きやすさ、集計のしやすさ等)	・事業改善に繋がる項目設定となっているか。 書き手に配慮した視点があるか。
	(12) 各参加者に係る地域包括支援センターへのフィードバック	・地域包括支援センターへのフィードバック手法について、その後の支援に繋がる具体的かつ効果的なものとなっているか。
(13) 事業2に移行しない事業終了者に対するアウトリーチ	・【事業2】へ移行しない理由を踏まえた、個別の対応が適切に行われるか。	
(14) その他の提案	・応募者の強み。 ・事業運営に対する提案等	
III 高齢者運動習慣促進事業【事業2】	(1) 事業のPR方法(自主的かつ効果的な広報実施の手法等)	・戦略的なPR手法が期待できるか。
	(2) 助成対象施設(指定スポーツクラブ)との連携	
	① 連携できるスポーツクラブの状況	・助成対象施設の数及び配置エリア等
	② 連携クラブ間での協議体の設置及び運営手法	・本事業の改善のほか、新たな介護予防事業の推進に向けた協議が期待できるか。
	(3) 事業参加者へのプログラム内容の説明(チラシ作成、説明方法等)	・事業参加者に事業趣旨を正しく伝え、事業効果を上げる取組が期待できるか。
	(4) 個人用カルテの内容(ポイントとなる項目、参加者個別対応に係る工夫等)	・各参加者の目標達成へ向けたプロセスが行えるような項目が設定されているか。
	(5) 行動変容等の視点・確認方法(待ち時間の使い方を含む)	・行動変容確認に係る視点が明確で効果的となっているか。 ・各プログラム中の確認方法は効率的に行われるか。
	(6) 3ヶ月のプログラムの概要(全体のコンセプト、各回の目標目安等)	・運動継続に係る動機付けが期待できるプログラム構成になっているか。 ・参加者個々の状態に合わせた配慮がなされているか。
	(7) 体力測定(項目の視点・実施の流れ等)	・各参加者の目標達成状況を確認できる有効な視点となっているか。
	(8) アンケート調査票(ポイントとなる項目、書きやすさ、集計のしやすさ等)	・事業改善に繋がる項目設定となっているか。 書き手に配慮した視点があるか。
	(9) 進路支援	
	① 尼崎市内の地域資源の把握状況	・本市の実施事業のほか、介護予防に係る地域資源を十分に把握しているか。
	② 助成対象施設(指定スポーツクラブ)への繋ぎ方	・事業参加者が入会するまでのサポートについて、具体的かつ効果的な取組みが期待できるか。
	(10) プログラム終了後の行動変容の把握方法	
① スポーツクラブ利用助成を受けない者へのアウトリーチ	・スポーツクラブ利用を行わない理由を踏まえた、個別の対応が適切に行われるか。	
② 利用助成を受けた者に対する入会後の管理・報告方法	・事業の有効な効果検証に繋がる管理が期待できるか。(利用者へのアンケート実施等を含む) ・スポーツクラブ利用へ移行した参加者の状態報告について、入会后9ヶ月以上の報告も可能か。	
(11) その他の提案	・応募者の強み。 ・事業運営に対する提案等	